

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

2025年 9月 29日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 医学部附属病院・薬剤部

職 名・学 年 助教

氏 名 重面 雄紀

助 成 の 種 類	令和7年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	World Sleep 2025		
発 表 形 式	☐ 招 待 ・ ☐ 口 頭 ・ ☒ ポスター ・ ☐ その他(		
発 表 題 目	Impact of Benzodiazepine Dose Reduction on Subjective Sleep and Anxiety in Insomnia Patients		
開 催 場 所	シンガポール・マリーナ センター・サンテック インターナショナル コンベンション アンド エキシビジョンセンター		
渡 航 期 間	2025年 9月 4日 ～ 2025年 9月 10日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 ☒ 無 ☐ 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	150,000円	
	使用した助成金額	150,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費 目	金額(円)
		航空運賃	120,000
		宿泊費	117,600
		滞在費	
		学会参加費	90,848
	その他	20,890	
	以上に助成金を充当		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)		

成果概要 / 重面雄紀

学会概要

2025 年 9 月 5 日から 10 日まで、シンガポール・Suntec Convention & Exhibition Centre にて第 18 回 World Sleep Congress が開催された。本学会は世界 75 か国以上から 3,000 名を超える研究者・臨床医が集結し、国際的な睡眠医学の最前線を共有する場となった。プログラムは 12 件の基調講演、123 件のシンポジウム、25 件の教育コース、そして 1,800 件以上の演題発表で構成され、基礎研究から臨床応用、技術革新まで多岐にわたる領域が網羅されていた。

自身の発表

私は「Impact of Benzodiazepine Dose Reduction on Subjective Sleep and Anxiety in Insomnia Patients」（演題番号 2108）をポスター発表として報告した。本研究では、不眠症患者におけるベンゾジアゼピン減量の影響を検討し、減量が睡眠の主観的質や不安の変化に及ぼす意義について議論した。ポスター会場では同様の臨床課題に取り組む研究者との活発な意見交換が行われ、減薬支援の具体的アプローチや地域ごとの臨床実践の違いについて有益な示唆を得ることができた。

全体の印象と学び

基調講演では、睡眠と概日リズムの基礎研究から新規治療戦略まで幅広い知見が共有された。特に、睡眠健康を人権として捉える社会的視点や、女性のライフステージに応じた介入の重要性が強調された点は印象的であった。また、睡眠呼吸障害や認知機能との関連に関する臨床研究が多く報告され、診断・治療技術の進歩を実感した。

今後への展望

今回の参加を通じ、世界的に睡眠医療の標準化と個別化医療の両立が求められていることを再認識した。自身の研究についても、国際的な文脈に位置づけることで臨床的意義をより明確にできると考える。今後は、多施設共同研究や技術革新を取り入れた臨床試験を視野に入れ、研究を発展させたい。